

第1回aaca建築・美術・工芸作品展

開催日:2025年1月19-26日

会場:建築会館1階ギャラリー(東京・港区)

展覧会委員会

展覧会委員会では、以前より、広く会員外からも公募を行うBOX展を開催してきましたが、この度、BOX展とは別に会員の皆様の作品発表の機会を新たに設け、会員間の交流の場を増やしていくために新しい展覧会「aaca建築・美術・工芸作品展」を開催いたしました。

この作品展は、建築・美術・工芸各分野の会員が美術・工芸作品だけではなく、建築・デザインなど幅広い作品を持ち寄ることができる新たな発表の場を目指した初めての試みでしたが、全国の会員の皆様から30点もの絵画・彫刻・工芸作品が出展され、沖縄、大阪、和歌山、京都からも出展いただきました。

初日の1月19日に開催いたしましたオープニングレセプションでのギャラリートークには地方の会員を含め23名の出展者が参加。出展者による熱心なご説明により、作品・制作手法などへの関心が高まると共に、参加された方々の相互理解が深まる場となりました。またオープニングレセプションも大いに盛り上がり二次会にも多くの方々が参加され、交流の輪が広がりました。会期中は約200名を超える方々(芳名帳記載者)にご来場いただきました。貴重なご意見などいただきましたこと感謝申し上げます。

(委員長 飯田郷介)



オープニングレセプション 東條会長あいさつ



オープニングレセプション

第1回の作品展を終えて

「第1回aaca建築・美術・工芸作品展」は初春の希望膨らむ時期に開催されました。

本作品展には、建築・美術・工芸・ランドスケープなどに携わるaacaの会員の方々の立体、平面などの多様な作品が出展されました。金属・石・染織・陶器・日本画・現代美術・日本刺繍・版画・ミクストメディア・立体造形・彫刻・うるしなど、さまざまな素材、多彩な表現手法が用いられた作品は、建築会館のギャラリー空間に美しく展示されました。

空間を顕在化させるアートの提供を通じた交流が行われたことにより、会員同士の連帯感を高め、多様な創造的感性の集合体であるaacaの魅力を未来へ発信する貴重な機会となりました。

初日に開催された「ギャラリートーク」では、出展者本人が、作品に込めた想いや創作技法・素材、今後の展望などを紹介し、活発な質疑応答も行われました。作品への理解が深まるとともに、交流の場として盛り上がりしました。

展示会場では、配布した出展者のステートメントなどを記載した「作品リスト」をご覧になりながら、時間をかけて作品を鑑賞する方が多かったのが印象的でした。

来訪された方々は、職業もバラエティに富み、関東地方在住の会員の方々だけに留まらず、関西地方など、日ごろ交流す

ることの少ない会員の方々も来場されていました。本作品展を通じて、多様な人的交流につながったのではないかと感じました。

会期中に来場された元aaca会員の日本芸術院会員・奥田小由女先生からは、展示内容に対して「会派・種別・大きさ・素材・表現方法など趣の異なる作品が展示されているながらも、空間構成の新たな可能性や面白みを感じる。一つひとつの作品のよさが引き立つ」とのお言葉を賜うことができました。aacaの魅力を多方面に発信することができたと思います。

建築・美術・工芸は人間の想像力と創造力の結晶です。未来の可能性を示す扉として、建築は空間を形づくり、美術は心揺さぶり、工芸は触れる喜びを生み、これらが交わることで文化を創造し、人々に感動を与え続けることになるのではないのでしょうか。

展覧会委員の一人として、この作品展が未来につながるaacaの新たな発信の一つとなることを心から願っています。そしてaacaが目指す文化的空間の創造のために、会員相互の交流や共創がさらに生まれるよう、次回作品展の開催に向けて推進し、また、外部との交流に力点をおいて外部発信の意味合いを強く持つBOX展の開催にむけて、さらなる尽力を重ねてまいります。

(副委員長 齋藤卯乃)

展覧会のこれからに向けて

「第1回aaca建築・美術・工芸作品展」は、「大きな作品の実在感の説得力があった」「作品各々のレベルが高い」などの評価をいただいて無事終了いたしました。そして作品展の開催を終え、展覧会として次なる一步をどの様に踏み出せば良いか、いくつかの課題が浮き彫りにされました。

展覧会というのは出口ですから、aacaが開催する展覧会では、その奥にはaacaが透けて見えなくてはならないと思います。第1回の作品展から見えてきた課題は、はたして建築・美術・工芸が一体となった活動であったか、という点ではないでしょうか。ただ、作品展にいらして下さった建築関係者の姿は少ないように感じました。一方、出展された会員の方からは、他にも展示の機会を持っていらっしゃる中で、aacaならではの交流も望まれる声も多く聞かれました。異業種間の垣根を超えて、aacaに集まって来た多種多様な人々とその活動を、どの様にすれば、相交えての意味深い交流としていけるのか、さらに考えていかなければなりません。

ギャラリートークで見事に語られた、作家おのおのの想いとそれを表現に落とし込む様々な工夫の話をお聞きし、私自身は、今後の鍵となるのは、「コンセプト」「想い」ではないかと思いました。アウトプットは業種によって様々でも、この社会、この地球、宇宙に共にある私たちは、「コンセプト」「想い」は互いに語り合えるように思います。また、視点を「作品」ではなく、創るということを中心に据えた「活動」と考えてみると、広く会員を巻き込めるのではないのでしょうか。

本作品展では、出展者皆様の力強い作品を前に、委員会一同、心新たにさせていただいた作品展となりました事、御礼申し上げます。そして、今後の作品展

の開催に向けては、皆様方から様々なご意見を伺いながら、会員の皆様や会員以外の方々にも、魅力ある、発見のある

展覧会を目指して企画内容を検討していきたいと考えております。

(副委員長 岡本直枝)

